

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 特定非営利活動法人 トッカビ

1. 事業名称 ときめき☆ちいき日本語プログラム

2. 事業の目的

コミュニケーション力向上を第一とする。主に八尾市に住む外国人市民が、日本語での会話に慣れ、自分で問題解決できること、地域参画(社会参画)につながるステップの場となることを目的とする。

3. 事業内容の概要

日本語教室においては「『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について」等を活用しながら、会話中心のトピック型を中心として教室活動を行う。また日本語教室以外であまり日本語を話す機会のない学習者がアウトプットできる場を創るために定期的に地域住民や当会の会員にも呼びかけて交流を行う。八尾市には韓国・朝鮮籍を始め、中国籍、ベトナム籍の外国人市民も多いので、中国語、ベトナム語、英語での翻訳・解説を加えた単語帳なども作成する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	出席者	議題	検討内容
1	平成24年7月9日 (月) 17:30～19:00	野中モニカ、松島秀作、 増田美穂子、吉田知子 朴洋幸、高橋佳代子	①今年度の地域日本語教育実践プログラムについて ②日本語教室のカリキュラムについて ③養成講座日程、募集チラシ配布先等について	①今年度の委託事業の説明と、昨年度と異なる点を説明 ②文化庁のカリキュラム案を元に講師+コーディネーターで素案を作り提案した。特に交流会を定期的に設けアウトプットの場を多くすることを確認。 ③養成講座の日程、講師、チラシ配布先、日本語教室のチラシ配布先等を確認した。
2	平成24年11月21日 (水) 17:30～19:00	松島秀作、 増田美穂子、吉田知子 朴洋幸、高橋佳代子	①地域日本語支援者養成講座開催結果について ②進捗状況(日本語教室、教材作成等)	①全7回で104名が参加。平均すると1回につき15人ぐらいの参加。タイトルが少し硬すぎた感はあるが、講座内容はとても考えさせられるものが多かった。 ②現時点まで15回の教室を開催した。その中で交流会は2回、参加者はとても楽しんでいる様子が見られた。日本語を話すことのためらいがとても減り積極的になっている。教材は毎回の教案をベースに作成している。単語帳はさくらともに分けて作成する。
3	平成25年3月4日 (月) 18:00～19:30	野中モニカ、松島秀作 増田美穂子、吉田知子 朴洋幸、高橋佳代子	①報告書について 教材集の利点と改善点等全体を通しての成果と課題 ②次年度について	① 標準的なカリキュラム案と教材集に関しては、イラストなどは少し古いイメージがあるものの、学習者にとってはイメージしやすいものが多かった。また教材集の細目がもう少し大まかなほうが地域ごとに使いやすいこと、教材集を発展させた会話のトピック例集などがあるとよいなどの意見が出された。地域との連携については、やおえこりやまちづくりワークショップを通じて一定の成果が出たという意見が多かった。更に交流の輪を広げるために、学習者の職場の同僚や地域の福祉委員なども招くなどの工夫があれば更に地域社会への参画がスムーズになるのではないかとアドバイスもあった。 ②次年度は自律学習を主軸にして教室活動を行うが、レベルによっては自律学習が難しい場合もあるのでソフトランニングができるような準備期間とプログラムの提供を考えたほうがよいとの意見が出た。

【写真】



5. 日本語教室の設置・運営

- (1) 講座名称 ときめき☆ちいき日本語教室
- (2) 目的・目標 地域に暮らす外国人市民が生活や仕事に必要な日本語を学び、それを活かすことを目的とする。媒介語に頼らなくても、自分で問題解決できる事案を増やすことを目指す。
- (3) 対象者 主に八尾市に住む外国人市民
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)
- (5) 使用した教材・リソース
主に『『生活者としての外国人』に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』や教材例集を活用しながら、講師オリジナルのレジュメ、他の教材を参考にした(詳しくは教材である教案に併記している)。
- (6) 受講者の総数 31 人
(出身・国籍別内訳 インドネシア 1 人、中国 5 人、ベトナム 25 人)
- (7) 受講者の募集方法
公益財団法人八尾市国際交流センター、東大阪市国際交流協会、特定非営利活動法人東大阪日本語教室へチラシを配布
(外国にルーツを持つ児童・生徒が多い学校へ保護者や親族を対象に)八尾市立高美小学校、八尾市立高美南小学校、八尾市立志紀小学校、八尾市立高美中学校、八尾市立志紀中学校へチラシを配布
八尾ベトナム人会、中国帰国者のための日本語教室、コミュニティ内にある料理店や雑貨店へチラシ配布
当会の事務所にチラシを配架すると共に、ポスター掲示
- (8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	補助者	備考
1	平成24年7月3日 19:00～21:00	10人	中国:(1人) ベトナム:(9人)	(Ⅵ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする) 自己紹介、趣味を話す	学習者が自分で紙とペンを使って名札を作る。自己紹介、趣味の言葉を確認後支援者とフリートークを行う。活動では「できること当てクイズ」を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P155～156参考
2	平成24年7月10日 19:00～21:00	9人	中国:(2人) ベトナム:(7人)	(Ⅵ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする) 身近な話題で交流する	服装(装飾品含)に関する言葉を確認後、学習者自身が身につけているものの説明を行う。色紙ワークシートを使って色の確認と短文を作成。支援者とフリートークを行う。活動はさくらクラスと共に「洋服バスケット」を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材
3	平成24年7月17日 19:00～21:00	9人	中国:(0人) ベトナム:(9人)	(Ⅵ人とかかわる 14他者との関係を円滑にする) 顔や体の特徴	～ティール形、～マス形の文法確認後、支援者とフリートークをしながら体の特徴や服装について話す。活動はさくらクラスと共に「犯人はだれ?」を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材
4	平成24年7月24日 19:00～21:00	10人	中国:(2人) ベトナム:(8人)	(Ⅷ社会の一員となる 16地域社会に参加する) 地域住民と交流する やおえこり	NPO法人トッカビが主催している「やおえこり」(やおの輪)に参加。ちぢみを食べながら参加者とフリートーク。その後多言語カルタ(中国語・ベトナム語・ハングル)をチーム対抗で行う。最後は同じチームで大縄を飛んだ。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	
5	平成24年7月31日 19:00～21:00	10人	中国:(0人) ベトナム:(10人)	(Ⅷ社会の一員となる 15地域・社会のルール・マナーを守る) 八尾市におけるゴミの分別	ゴミの種類を確認後収集日や時間を確認する。ゴミクイズに挑戦! 支援者とのフリートークでゴミの出し方ルールや困ったことを話す。活動はさくらクラスと合同で「ゴミ分別」ワークを行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P181～182参考
6	平成24年9月4日 19:00～21:00	10人	中国:(2人) ベトナム:(8人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 01 健康を保つ) からだの部位、内臓と症状について	からだの部位とレジュメの症状を確認。学習者同志、支援者とお国の治療法や健康のために何をしているかフリートーク。活動ではチーム対抗で「体のどこでしょう」ワークを行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P15参考
7	平成24年9月11日 19:00～21:00	11人	中国:(2人) ベトナム:(9人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 01 健康を保つ) 薬の飲み方・処方箋について知る	市販薬空箱を使って薬の種類や接種方法を確認後、処方箋・調剤薬局の見方も確認する。活動では「処方箋ロールプレイ」を行う。薬の種類好き嫌いをテーマにフリートークを行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P28参考
8	平成24年9月18日 19:00～21:00	10人	中国:(1人) ベトナム:(9人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 01 健康を保つ) 診療科について知る	各診療科の確認をする。その後受付の言葉も確認してロールプレイを行う。病院で困ったことのフリートーク後、活動では「診療科神経衰弱」を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P11～13参考 「日本語教師のための楽しく教える活動集22」アルタ
9	平成24年9月25日 19:00～21:00	11人	中国:(1人) ベトナム:(10人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 01 健康を保つ) 健康について まとめ	健康に関する〇×クイズを行った後、フリートークで病気にならない方法やストレスについて話す。活動ではさくらクラスと合同で河内音頭の練習を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集参考
10	平成24年10月2日 19:00～21:00	11人	中国:(2人) ベトナム:(9人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する) 衣類	絵カードや実際の洋服を使って衣類の名称を確認する。TPOで服装を使い分けるかをテーマにフリートーク。活動では「おすすめします」ペアワークと、さくらクラスと合同で河内音頭の練習を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P100～101参考
11	平成24年10月9日 19:00～21:00	10人	中国:(1人) ベトナム:(9人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する) 食べ物の名前	食品の語彙を確認後、調味料や冷凍食品、料理は好きかどうかなどのフリートークを行う。活動では「古今東西ゲーム」と、さくらクラスと合同で河内音頭の練習を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P98～99参考
12	平成24年10月16日 19:00～21:00	10人	中国:(2人) ベトナム:(8人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する) 身の回りのものの名前	日本語支援者養成講座の参加者と話しながら、学習者の部屋のなかにあるかをレジュメシートに書き込んでいく。その後自分の部屋がどんな部屋かを発表する。活動ではさくらクラスと共に河内音頭の練習を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P102参考
13	平成24年10月23日 19:00～21:00	10人	中国:(2人) ベトナム:(8人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物品購入・サービスを利用する) 買い物-衣	「ここ、あそこ、どこ」等の基本的な指示語を確認。フリートークではよく利用する店や店員さんとの会話について話をする。活動では「どこですか」ゲーム、「わたしの国」ワークを行う。最後にさくらクラスと合同で河内音頭の練習を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P102参考

ももクラス

14	平成24年10月30日 19:00～21:00	11人	中国：(2人) ベトナム：(9人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物 品購入・サービスを利用す る) レストラン・食	レストランの言葉を確認する。フリートークでは「誰とどこで食 べる」について話す。活動では「レストランでお気に入りの料 理」を考えて発表、また次週に行われる交流会での「自分ク イズ」を作成する。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材
15	平成24年11月6日 19:00～21:00	11人	中国：(0人) ベトナム：(11人)	Ⅷ社会の一員となる 16地域社会に参加す る 地域住民や学校と交 流する やおえこり	今回のやおえこりは「ベトナムDAY」だった。ベトナムの参加 者やゲストがモデルとなりアオサイ(民族衣装)を紹介。その 後ベトナム出身の参加者にベトナムについての説明をしてもら う。ベトナム料理「生春巻き」を参加者の指導のもとにゲスト と一緒につくる。その後ベトナムクイズと自分クイズを三択形 式で行う。最後には、練習してきた河内音頭を披露した。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	
16	平成24年11月13日 19:00～21:00	11人	中国：(1人) ベトナム：(10人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物 品購入・サービスを利用す る) 部屋・日常品雑貨の名称・住	部屋の名称や目的、日用品雑貨名称を絵カードなどを使って 確認する。フリートークでは「掃除」をテーマに話す。活動は 「日用品神経衰弱」。その後更にフリートークで「日用品を買う 店」について話す。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集P101参考
17	平成24年11月20日 19:00～21:00	10人	中国：(1人) ベトナム：(9人)	(Ⅲ消費活動を行う 05物 品購入・サービスを利用す る) 衣食住のまとめ	ものの名称や用途などについてのまとめを行う。活動は、「助 詞ゲーム」で基本的な助詞の使い方の確認を行い、「私のお 気に入り」ではどんなものでも良いので1つ選んでお気に入り について発表する。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集 参考
18	平成24年11月27日 19:00～21:00	12	中国：(2人) ベトナム：(10人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マ ナーを守る) 町のことば・道案内のこと ばを覚える	道案内の言葉や施設を絵カードを使って確認する。活動では ペアになって「道案内しよう!」を行う。フリートークでは「自転 車置き場、道に迷ったこと」について話す。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集P145～ 148参考
19	平成24年12月4日 19:00～21:00	9人	中国：(1人) ベトナム：(8人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マ ナーを守る) 地方自治体・都道府県 と市町村を知る	日本、大阪の白地図で、自分たちの住む八尾市の確認をする。 また関西地域や大阪府を例にして、都道府県や市町村 の確認を行う。活動と会話では「八尾市長はだれでしょう」を テーマに行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集P168参考
20	平成24年12月11日 19:00～21:00	11人	中国：(1人) ベトナム：(10人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マ ナーを守る) 日本・八尾市について まとめ	防災アンケート(八尾市国際交流センターより依頼)の記入を 行う。八尾市にある施設を確認する。八尾市の魅力について 写真をみながら話をする。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集
21	平成24年12月18日 19:00～21:00	9人	中国：(0人) ベトナム：(9人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マ ナーを守る) まちづくりワークショップ	八尾市がどのようなまちなのかを、八尾市職員よりクイズを交 えながら説明。その後、参加者でどのような街に住みたいか ワークショップを行う。その後クリスマスの歌をダンスとともに 歌う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	
22	平成25年1月8日 19:00～21:00	9人	中国：(1人) ベトナム：(8人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る) 防犯について話す 110・ 119	どんな時に警察・救急へ連絡するかを確認。また犯罪にあっ た時の言葉を確認しそれぞれ実践する。 活動ではひたひたににあったことを想定してロールプレイを行 う。また今年の目標を～したい、ほしいなどの言葉を使って発 表する。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集P47、49参 考
23	平成25年1月15日 19:00～21:00	10人	中国：(1人) ベトナム：(9人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る) 天気予報・警報	天気図に関する言葉を確認、警報と注意報の違いなども確認 する。会話では災害の経験話す。活動では「しりとりに」ゲー ム、さくらクラスと合同で「晴れ男?雨男?」ペアワークを行 う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材 新聞天気図
24	平成25年1月22日 19:00～21:00	8人	中国：(6人) ベトナム：(2人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る) 地震について話す	阪神大震災や東日本大震災について思うことを話した。語彙 では地震が起こった時の行動について確認(○×形式)。活 動では「わたしの情報」として災害の時に役立つ情報の確認 を行った。後半の活動では「友達に似顔絵を描こう」という テーマでほかの学習者を相手にして似顔絵とメッセージを書 いた。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集P57参考
25	平成25年1月29日 19:00～21:00	8人	中国：(1人) ベトナム：(7人)	(Ⅰ健康・安全に暮らす 02安全を守る) 事件・自然災害につい てまとめ	お天気マークの復習と、○×形式での安全クイズを行う。会 話では地震や台風などで気を付けていることをペアワークで 行う。前半の活動では「てるてる坊主をつくらう!」と称して実 際にてるてる坊主をつくりながら話をする。後半の活動ではひ らがなカードを使って、単語をつくるゲームを行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての 外国人」教材 例集 参考
26	平成25年2月5日 19:00～21:00	10人	中国：(1人) ベトナム：(9人)	(Ⅶ人とのかかわる 14他者 との関係を円滑にする) 電話でよく使う(聞く)こ とば	会社や学校に電話をかけた時の話をする。電話の言葉を確 認後、実際に会社の上司に電話をかけるロールプレイを行 う。更にスマホや1か月の料金など電話にまつわる言葉を確認 しながら話す。活動では「サンキュー」(~てくれてありがと う)を行い、クラスメートに「ありがと」を伝える活動を行った。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材

27	平成25年2月12日 19:00～21:00	9人	中国: (1人) ベトナム: (8人)	(Ⅶ人とかがわる 14 他者との関係を円滑にする) 自分の家族、友人について	自分の家族と他人の家族の言い方を確認する。その後レジュメを配付し、学習者が子どもの時何をしたのかをベアになって考える。活動は「これなに？」クイズで、写真を見たオニが、ものの名称は言わずに口頭説明をし、他の学習者はそれが何かを当てるゲームを行う。最後にレジュメで話したことを発表。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	「生活者としての外国人」教材例集P160参考
28	平成25年2月19日 19:00～21:00	8人	中国: (1人) ベトナム: (7人)	(Ⅶ人とかがわる 14 他者との関係を円滑にする) 学校・保育所での行事	行事について、レジュメを配付し言葉を確認する。その後行事の思い出を話す。活動では「インタビューしよう！」と称してさくらクラスの学習者や支援者などに子どもの時の行事についてインタビューを行う。後半の活動ではカタカナ七並べを行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材
29	平成25年2月26日 19:00～21:00	8人	中国: (0人) ベトナム: (8人)	(Ⅶ人とかがわる 14 他者との関係を円滑にする) 学校や家族について話す まとめ	会話では学校の思い出や家族について復習しながら話した。また自分自身(日本語教室に参加して思ったこと・今後挑戦したいこと…)についての考えをまとめ、発表する。活動では「カタカナ単語づくり」を行う。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	オリジナル教材
30	平成25年3月5日 19:00～21:00	10人	中国: (2人) ベトナム: (8人)	(Ⅶ人とかがわる 16 地域社会に参加する) 修了式	修了証書を渡す。その後マジックを披露し全員でそのマジックをやってみる。日本語学習者より紙芝居「かちかち山の披露。後半は地域でハンドベルの活動をしている方を招いて、「ドレミの歌」の演奏にチャレンジした。	1人	増田美穂子	2人	金 洋子 金 峰健	

さくらクラス

回数	開講日時	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	備考
1	平成24年7月3日 19:00～21:00	9人	インドネシア: (1人) 中国: (2人) ベトナム: (6人)	(Ⅳ人とかがわる 14他者との関係を円滑にする) 自己紹介	他の人の自己紹介を聞きながらメモで書き取る。色紙ワークシートを使って、色の名前を確認した後、各色の自分の持ち物や友達の好きな色について話した。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P158～159参考
2	平成24年7月10日 19:00～21:00	8人	インドネシア: (0人) 中国: (2人) ベトナム: (6人)	(Ⅵ人とかがわる 14他者との関わりを円滑にする) 第1回の「色」と合わせ友達と交流する	洋服の種類を確認し、TPOでどのように使い分けているかを話す。その後他の学習者が普段身につけている洋服について質問し、答えを書きとめてそれを発表。活動はももクラスと共に「洋服バスケット」を行う。	1人	吉田 知子	0	オリジナル教材
3	平成24年7月17日 19:00～21:00	8人	インドネシア: (1人) 中国: (2人) ベトナム: (5人)	(Ⅶ人とかがわる 14他者との関係を円滑にする) 友達について表現する顔や体の特徴	～テイル形マス形の導入後、友人の顔や体の特徴を話す。他のクラスの誰を説明しているのかをクイズ形式で一人ひとり発表。活動はももクラスと共に「犯人はだれ？」を行う。	1人	吉田 知子	0	オリジナル教材
4	平成24年7月24日 19:00～21:00	9人	インドネシア: (0人) 中国: (1人) ベトナム: (8人)	(Ⅷ社会の一員となる 16地域社会に参加する) 地域住民と交流するやおえこり	NPO法人トッカビが主催している「やおえこり」(やおの輪)に参加。ちぢみを食べながら参加者とフリートーク。その後多言語カルタ(中国語・ベトナム語・ハングル)をチーム対抗で行う。最後は同じチームで大縄を飛んだ。	1人	吉田 知子	0	
5	平成24年7月31日 19:00～21:00	9人	インドネシア: (0人) 中国: (3人) ベトナム: (6人)	(Ⅷ社会の一員となる 15地域・社会のルール・マナーを守る) 八尾市でのゴミの分別	ゴミの分別と収集について確認し、各自の地域での収集について話す。活動はももクラスと合同で「ゴミ分別」ワークを行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P180～182参考
6	平成24年9月4日 1900～21:00	10人	インドネシア: (1人) 中国: (2人) ベトナム: (7人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 01健康を保つ) 病気になった時の対処の仕方	夏休みはどうだったかを話す。朝日新聞のベトさんドクさんについて書かれた記事についても話す。病気になった時の対処法(時間外の時や救急車へ連絡する時など)の語彙を確認する。最後に病気になった時に困ったことがないかを話す。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P16参考
7	平成24年9月11日 19:00～21:00	8人	インドネシア: (1人) 中国: (2人) ベトナム: (5人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 01健康を保つ) 薬 処方箋と市販薬について	内臓名称と主な働きを確認する。会話では、処方箋を通じて薬局で購入する場合と市販薬を買う場合について話す。薬の種類やラベルの見方、服用時についての言葉も確認した。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P15、24参考
8	平成24年9月18日 19:00～21:00	10人	インドネシア: (0人) 中国: (2人) ベトナム: (8人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 01健康を保つ) 病院の構成について	前回の言葉の復習を行う。病状から受診科を説明する。入院・退院・通院の説明も併せて行う。会話は病院へ行った時のことや伝染病について。活動では世界一周カルタを行った。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P11～13、16参考

9	平成24年9月25日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(1人) 中国:(3人) ベトナム:(6人)	(Ⅰ 健康安全に暮らす 01 健康を保つ) 診療科の種類と症状 まとめ	具体的な症状をあげて、どの診療科にかかるかを考える。会話ではよくある症状・アレルギーについて話をした。また、ももクラスと合同で健康クイズを行った。活動ではももクラスと共に河内音頭の練習を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P16参考
10	平成24年10月2日 19:00～21:00	9人	インドネシア:(1人) 中国:(1人) ベトナム:(7人)	(Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する) 衣類	レジュメを配付し、衣類の種類やサイズ、動作を表す言葉等を確認する。活動では「短所を長所に変える」言葉のリフレーミングを行う。後半の活動ではももクラスと共に河内音頭の練習を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P100～101参考
11	平成24年10月9日 19:00～21:00	9人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(6人)	(Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する) 食品	食品の買い物について会話をする。食品細目リストを見ながら読み方を確認し、母国と日本の食材の違いについても話した。活動では人生ゲームを行う。後半の活動ではももクラスと共に河内音頭の練習を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P98～99参考
12	平成24年10月16日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(0人) 中国:(2人) ベトナム:(8人)	(Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する) もの、家財道具	日本語支援者養成講座参加者と自己紹介をする。家の中にある言葉について確認。会話では、養成講座参加者とフリートークを行った。後半の活動ではももクラスと共に河内音頭の練習を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P100～102参考
13	平成24年10月23日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(0人) 中国:(3人) ベトナム:(7人)	(Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する) 買い物-衣	お店・衣類、洗濯の仕方の言葉を復習と確認を行った。その後大型店での買い物の会話を行う。活動では、前回やった人生ゲームを参考にしてオリジナル人生ゲームの作成にとりかかった。	1人	吉田 知子	0	みんなの日本語ベトナム話版 P22、23参考
14	平成24年10月30日 19:00～21:00	9人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(6人)	(Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する) レストラン-食	会話では「外食」をテーマに話をした。その中で外食の言葉を確認した。その後食事の種類について更に会話を重ねた。活動ではオリジナル人生ゲームの作成を行った。	1人	吉田 知子	0	オリジナル教材
15	平成24年11月6日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(0人) 中国:(2人) ベトナム:(6人)	(Ⅷ社会の一員となる 16 地域社会に参加する) 地域住民や学校と交流する やおえこり	今回のやおえこりは「ベトナムDAY」だった。ベトナムの参加者やゲストがモデルとなりアオザイ(民族衣装)を紹介。その後ベトナム出身の参加者にベトナムについての説明をもらおう。ベトナム料理「生春巻き」を参加者の指導のもとにゲストと一緒につくる。その後ベトナムクイズと自分クイズを三択形式で行う。最後には、練習してきた河内音頭を披露した。	1人	吉田 知子	0	
16	平成24年11月13日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(0人) 中国:(3人) ベトナム:(7人)	(Ⅱ 住居を確保・維持する 04 住環境を整える) 電気・ガス・水道-住	電気・ガス・水道について話しながら語彙を確認する。実際に申し込みを想定したロールプレイも行った。更に引越して大変だったことなどを話す。活動は引き続きオリジナル人生ゲームの作成。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集P85～86参考
17	平成24年11月20日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(1人) 中国:(1人) ベトナム:(6人)	(Ⅲ 消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する) 衣食住のまとめ	外食・スーパーの言葉を復習。活動は自分たちで作ったオリジナル人生ゲームを行った。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 参考
18	平成24年11月27日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(7人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る) 町の交通ルールを知る	レジュメを配布し、自分の町にある乗り物や私鉄の名前を確認した。会話では運転ルールやマナーについて話した。活動では「道案内しよう」で、ある名所に行くための説明をゲーム形式で行った。	1人	吉田 知子	0	オリジナル教材
19	平成24年12月4日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(5人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る) 手続き(市役所)	どんな時に市役所へ行くか、資料をみながら考える。言葉では、市役所でよく使う言葉の読み方と意味を考えた。活動ではクロスワードを行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 P169、172、173参考
20	平成24年12月11日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(0人) 中国:(2人) ベトナム:(8人)	(Ⅷ社会の一員となる 15 地域・社会のルール・マナーを守る) 八尾について まとめ	防災アンケート(八尾市国際交流センターより依頼)の記入を行う。会話では、八尾にある施設やいつも行くところについて話をする。後半の会話では、八尾はどんなまちかを次週のワークに向けて話し合った。	1人	吉田 知子	0	オリジナル教材
21	平成24年12月18日 19:00～21:00	7人	インドネシア:(0人) 中国:(1人) ベトナム:(6人)	(Ⅷ社会の一員となる 16 地域社会に参加する) まちづくりワークショップ	八尾市がどのようなまちなのかを、八尾市職員よりクイズを交えながら説明。その後、参加者でどのようなまちに住みたいかワークショップを行う。その後クリスマスの歌をダンスとともに歌う。	1人	吉田 知子	0	

22	平成25年1月8日 19:00～21:00	10人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(7人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 02 安全を守る) 110番・119番	新年のあいさつをしてお正月に何をしたかをフリートーク。その後110番、119番について話をする。後半は、ロールプレイで110番、119番のロールプレイを行った。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 P74、77参考
23	平成25年1月15日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(5人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 02 安全を守る) 天気予報	天気の語彙と警報の語彙を確認する。会話では、もくろくと合同で「晴れ男？雨男」でペアワークを行う。活動では「狸の電話」シートで言葉遊びを行う。	1人	吉田 知子	0	新聞の天気予報図にほんごであそぼうⅢP61
24	平成25年1月22日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(1人) 中国:(4人) ベトナム:(3人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 02 安全を守る) 地震の理解・避難所	地震のときどうするかを資料を配付して話をする。その後阪神大震災の体験や東日本大震災の様子について話をした。語彙では災害・避難の言葉を再度確認した。活動では「物語をつくろう！」をテーマに12枚の異なる絵をつなげてストーリーをつくった。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 P57、67参考
25	平成25年1月29日 19:00～21:00	7人	インドネシア:(1人) 中国:(1人) ベトナム:(5人)	(Ⅰ健康安全に暮らす 02 安全を守る) 防災・防犯 まとめ	110・119、天気、地震・避難の言葉を会話を交えながら復習。活動では前回の続きで「物語をつくろう！」を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 参考
26	平成25年2月5日 19:00～21:00	9人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(6人)	(Ⅶ人とのかかわる 14 他者との関係を円滑にする) 自己紹介のしかた	レジュメを配付し、自己紹介シートに記入した。また家族の呼び方の語彙を確認し、改めて自己紹介と自己紹介を行う。活動では2回連続で取り組んだ「物語をつくろう！」を完成させたものを紙芝居風に読んだ。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 P156～160参考
27	平成25年2月12日 19:00～21:00	7人	インドネシア:(0人) 中国:(3人) ベトナム:(4人)	(Ⅶ人とのかかわる 14 他者との関係を円滑にする) 会社・学校に電話する	資料を配付し言葉の確認を行う。会話では会社で電話をかける時の注意事項や留守番電話の入れ方を確認。更にさまざまな場面を想定して電話ロールプレイを行った。活動では大阪弁神経衰弱を行い、引いたトランプの大阪弁で例文を作成した。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 P244～246参考
28	平成25年2月19日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(5人)	(Ⅶ人とのかかわる 14 他者との関係を円滑にする) 行事(学校 保育所 家庭)	行事とはどのようなものがあるのかをレジュメで確認する。学校や家庭、日本の行事の言葉を確認しながら会話を行う。活動では「わたしについて」シートを配付し、自分分析を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 参考
29	平成25年2月26日 19:00～21:00	7人	インドネシア:(1人) 中国:(1人) ベトナム:(5人)	(Ⅶ人とのかかわる 14 他者との関係を円滑にする) 相手の話(学校・行事など)まとめ	相手の家族、仕事、子どもの学校等について話を聞く。会話ではレジュメを使いながら質問シートを記入する。更に子どもの頃の行事の会話をしながら語彙の復習をする。活動では交流会で発表するためのかちかち山の紙芝居の朗読の練習を行う。	1人	吉田 知子	0	「生活者としての外国人」教材例集 参考
30	平成25年3月5日 19:00～21:00	8人	インドネシア:(1人) 中国:(2人) ベトナム:(5人)	(Ⅶ人とのかかわる 16 地域社会に参加する) 修了式	修了証書を渡す。その後マジックを披露し全員でそのマジックをやってみる。日本語学習者より紙芝居「かちかち山の披露。後半は地域でハンドベルの活動をしている方を招いて、「ドレミの歌」の演奏にチャレンジした。	1人	吉田 知子	0	

(9) 特徴的な授業風景

さくらクラスの特徴的な授業風景

授業日:第 12 回 2012 年 10 月 16 日(火)19:00～21:00

場所:八尾市立安中人権コミュニティセンター

講師:吉田知子

トピック分類:Ⅲ消費活動を行う 05 物品購入・サービスを利用する

講座トピック:もの・家財道具 日本語支援者養成講座の参加者と会話する

参考教材:「生活者としての外国人」教材例集 P100～102 参考

使用教材:レジュメ・教材例集 P100～101 別表2コピー

活動内容:

日本語支援者養成講座の参加者自己紹介やフリートークなどで交流。語彙は家の中にある、若しくは知っている家財道具について話す。また教材例集の資料で、さまざまなものの名称や用途を確認。最後は学習者も参加者も一緒になって河内音頭を練習。

クラス内の様子:

学習者は自己紹介にはすっかり慣れている。初対面の参加者と会話ができるか心配されたが、積極的に質問をしたり冗談を言ったりしていた。いつもは講師や支援者との会話だけだが、大勢の日本語話者との会話は新鮮で楽しめた様子。家財道具については、知ってはいるが名前は知らないというものが多く、参加者に尋ねていた。また、資料などで初めて聞いた家財道具について用途などを尋ねると、参加者はどのように説明するかで四苦八苦していたようだ。学習者は参加者の説明を熱心に聞き、わからない場合は聞き直すこともできていた。やや早口の参加者にうまくついていけない学習者もいたが、日常会話に慣れるという点でそのままフォローを入れずに進めたところ、その学習者はだんだん自分のペースをつかめるようになってきた。学習者にとって、これまでの学習成果を感じられる機会となったのではないだろうか。

ももクラスの特徴的な授業風景

授業日:第 19 回 2012 年 12 月 4 日(火) 19:00～21:00

場所:八尾市立安中人権コミュニティセンター

講師:増田美穂子

講義補助者(会話ファシリテーター): 金峰健 金洋子

トピック分類:Ⅷ社会の一員となる 15 地域社会のルール・マナーを守る

講座トピック:地方自治体-都道府県と市町村を知る

参考教材:「生活者としての外国人」教材例集 P168 参考

使用教材:レジュメ・日本及び大阪府白地図(都道府県名、大阪府市町村名が記載されているもの)・色鉛筆・人物写真(大阪府知事・大阪市長・八尾市長など)

活動内容:

白地図で都道府県や市町村を色分けしながらイメージする。日本白地図で都道府県の意味を確認。さらに都道府県の数数えた。その後、大阪府白地図で市町村の意味と八尾市の位置を確認した。活動では、写真を使って八尾市長やほかの要人について話した。

クラス内の様子

以前神戸に住んでいた学習者が都道府県地図に「なぜ神戸がない?」と疑問に持ったり、別の学習者は大阪には八尾と東大阪しかないと思っていたりなど、イメージがなかなかつきにくい様子だった。都道府県があり、大阪府があり、八尾市がある、とひとつひとつ確認しながら進めた。生活でのコミュニケーション力はあがっているが、こうした情報はなかなか知る機会がないので、学習者はかなり熱心に色分けをしていた。市役所に行ったことはあるが、府でできることと市でできることの違いなどの認識はあまりなく、こうした取り組みで大阪や八尾についておおまかでもイメージをつかめるようにしたい。最後には自分たちがどこの都道府県、または市町村に住んでいるか答えることもできたので、イメージや語彙が定着するよう、次回も復習にしっかり時間をとった。ニュースに関

心のある学習者は大阪市長についてよく知っていて、ほかの学習者に教えていた。



さくらクラス授業風景



やおえこり「ベトナムDAY」

(10) 目標の達成状況・成果

さくらクラス

さくらクラスはゆっくりなら日常会話ができるレベルではあるが、残念ながらアウトプットできる場があまりなかった。新しい言葉は会話を通して学び、ひとつのトピックについてとにかく話し続け、会話に慣れるようにした。これまで季節ごとに交流会を設けてきたが、今年度は当会主催の地域住民と交流するイベントにも参加。日本語教室以外の人とかわかることで、自身の日本語に少しずつ自信がもてるようになってきた。今まで交流会にまったく参加しなかった学習者が、今年度のイベントでは積極的に前に出たり、発表時には誰も思いつかないような冗談を言うこともあった。どうしても同じ言語話者同士で話すことが多いが、ほかの言語話者のために日本語で話そうとみんなに提案する学習者もいた。日本語教室から一歩外に出たことで日本語を通じたコミュニケーションスキルがあがったと考えられる。

ももクラス

ももクラスはさくらクラスに比べ語彙数が圧倒的に少なく、どうしても発話が制限される。しかし学習者は積極的で、自分が言える範囲での会話を楽しんでいた。語彙を増やしながらかそれに関連した会話を繰り返すことで定着を図った。クラスの仲間や支援者とのコミュニケーションはよくとれていて、ゲームやペアワークなども和気あいあいとした雰囲気が進められた。日本語力への自信のなさで発話量の少なかったある学習者は、学習した語彙を次回までにしっかり覚えてくる。語彙を覚えることで単語のみでも会話が成立し、コミュニケーションをとるうえでの自信がついてきた。また、初めから発話の多かった学習者はより表現が豊かになるなど、学習者それぞれになんらかの変化がみられた。

(11) 改善点について

講師と支援者とのコミュニケーション。毎日支援者に講師側からの要望を伝えてはいるが、支援者の個性を出すため、あえてこまかい指示は出さずにペアワークをお任せしてきた。しかしそのことで支援者を戸惑わせることもあった。ワークの意図や方法など必要事項は細かく事前確認し、支援者も安心して参加できるようにすることが大切だと思

われる。それが学習者の安心感にもつながる。

授業展開。会話中心に進め、学習者のコミュニケーション力はあがったと思われるが、ややマンネリ化しているということも否めない。さらに変化をつけた授業展開を工夫する必要がある。

学習者の意識。運営側にも問題はあったが、学習者は日本語学習にとっても熱心な反面、自分でどのように学習したらいいか、何をしたいかとはあまり考えてこなかったかもしれない。今後は学習者が自分で考えて学習できる環境作り(自律性の育成)や仕掛けを工夫したい。

地域社会とのつながり。教室を越えた活動がイベントだけにとどまらず、学習者にとっていつでもそのような場があることが理想。学習者にさまざまな機会があることを伝えていくように努める。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称 外国人市民のための地域日本語支援者養成講座
- (2) 目的・目標 外国人市民が地域で安心して生活・就労ができるようコミュニケーション力重視の日本語教室で日本語指導(支援)者として必要なスキルを身につける。
- (3) 対象者 日本語支援をしているまたは日本語支援に興味を持つ市民
- (4) 開催時間数(回数) 14 時間 (全 7 回)
- (5) 使用した教材・リソース
講師のオリジナル教材
- (6) 受講者の総数 25 人
(出身・国籍別内訳 日本 16 人、韓国・朝鮮 3 人、ベトナム 4 人、中国 2 人)
- (7) 受講者の募集方法
八尾市教職員組合(退職者教員を対象)、公益財団法人八尾市国際交流センター、日本語ネットワークYAO、八尾市教育委員会人権教育課、生涯学習スポーツ課、八尾市市民活動ネットワークつどい
東大阪市教育委員会事務局人権教育室、東大阪市国際交流協会、特定非営利活動法人東大阪日本語教室
柏原市教育委員会社会教育課
公益財団法人大阪国際交流センター、公益財団法人大阪府国際交流財団
へ等へチラシ配架
当会全会員へ案内送付
八尾市市民活動ネットワークつどいニュース 8 月号へ掲載
八尾市広報 10 月号へ掲載

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者数	講師又は指導者名	補助者数	備考
1	平成24年10月13日 9:30~10:30	1時間	18人	日本(13人)中国(2人) 韓国・朝鮮(2人) ベトナム(1人)	はじめに 八尾市の外国人市民 の状況	「外国人」とはどのような人か。外国籍市民を取り巻くあらゆる壁(法・社会・コミュニケーション)、とくに社会的距離について考える。	1人	朴 洋幸	0	オリジナル教材
2	平成24年10月13日 10:35~12:35	2時間	16人	日本(11人)中国(2人) 韓国・朝鮮(2人) ベトナム(1人)	地域日本語教室講師・ 日本語支援者からの 話 座談会	講師、支援者の立場から大切にしている思いについて聞く。その上でこれから日本語支援に関わりたいと考えている養成講座参加者と意見交換する。	2人	増田 美穂子 ネルソン百合子	0	オリジナル教材
3	平成24年10月13日 13:20~16:20	3時間	15人	日本(8人)中国(1人) 韓国・朝鮮(2人) ベトナム(4人)	教室活動をやってみよう!	地域日本語教室における教室活動を考える上で大切なことはなにか。教師主導ではなく、学習者主導の教室活動、即ち「自律学習」について考える。	1人	尾形 文	0	オリジナル教材
4	平成24年10月14日 10:00~14:00 *1時間休憩を挟む	3時間	12人	日本(7人)中国(1人) 韓国・朝鮮(2人) ベトナム(2人)	異文化コミュニケーション ワークショップ	数種類のワークで、個人の価値観や文化について話し合う。また、アメリカで実際に行われた実験授業のドキュメンタリーを上映し、差別について考える。	1人	富岡 美知子	0	オリジナル教材
5	平成24年10月14日 14:00~16:00	2時間	14人	日本(8人)中国(1人) 韓国・朝鮮(2人) ベトナム(3人)	学習のユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインの概念とは何か。なぜ教育にユニバーサルデザインが必要なのか、さらに、ともに学び、ともに育つためにどのような環境が必要なのか考える。	1人	伊丹 昌一	0	オリジナル教材
6	平成24年10月16日 19:00~20:00 *開講は18時より	1時間	11人	日本(8人)韓国・朝鮮 (1人) ベトナム(2人)	日本語教室に参加してみよう!	「ときめき☆いき日本語教室」に支援者として参加し、学習者とフリートークや踊りなどの活動を実際に行う。(この日のテーマは「家財道具」について)				オリジナル教材
7	平成24年10月16日 18:00~19:00 20:00~21:00	2時間	11人	日本(8人)韓国・朝鮮 (1人) ベトナム(2人)	まとめ 地域日本語支援で大切なこと	地域日本語支援で大切なことや、コミュニケーションを図るために必要なポイントを考える。また、ボランティアとは何かを考えよう、で、「ボランティアしてあげる人」になっていないか振り返ってみる。	1人	野中 モニカ	0	オリジナル教材

(9) 特徴的な授業風景

第3回「教室活動をやってみよう!」講師:尾形文さん

地域日本語教室に来る学習者はどのような人たちなのか、また地域日本語教室に来る支援者はどのような人たちなのかを参加者で話し合った。そして学習者の状況(例えばインドネシア出身の女性で長崎出身の配偶者、2人の子供がいる場合の日本語学習内容はどのようなものがよいか。ブラジル出身の男性で独身、工場勤務の場合の日本語学習内容はどのようなものがよいか等)にあった教室活動を考えるグループワークを行った。大切なことは「誰を中心に考えるのか」(学習者中心なのか、指導者・支援者中心と考えるのか)によって学習者のニーズを引き出すことができるかどうかが変わってくる。あくまでも学習者が選択し学習する(学習者の自律性を重視する)ことが大切だということを学んだ。

第4回「異文化コミュニケーションワークショップ」講師:富岡美知子さん

参加型ワークショップを行いながら、自分の価値観と他人の価値観が異なることを体験する。またコミュニケーションの取り方は言語だけでなく非言語によるコミュニケーションも

大きいこと、そのコミュニケーションも国によって異なることを学んだ。ワークショップでは「ある物語」や「文化のパターン：価値志向」、「あなたの空間使い方チェック」等を行い、改めて自分の価値観がどのようなものかを認識した。後半では「パワーバランス」について学び、日本社会の中では圧倒的に日本語話者の力が強くなる構図があること、地域日本語教室の中でもその構図があることを心にとめて活動を行うことが大切だということを学んだ。



「教室活動をやってみよう！」講師：尾形文さん



「異文化コミュニケーションワークショップ」講師：富岡美知子さん

(10) 目標の達成状況・成果

地域日本語教室で活動する際に必要なスキルをつけるという目的で講座全体を構成した。ルーツを持つ子ども達が在籍する学校の講師や他の日本語教室に関わっている人、コミュニティの人など多様な人が参加した。特に今回の講座では、中国やベトナムにルーツを持つ人も参加してくれたことが大きな成果である。コミュニティ内では日本語が壁となってコミュニティの外に出ることを躊躇する人も多い。そのような人たちに向けてこの講座に参加した人が新たな働きかけをしてくれることが期待される。

今回もグループワークやワークショップ形式を取り入れたので、体験をしながらいろいろなことに気付く(特に自分自身を振り返る)機会があったことが良かった。日本語支援はややもすれば指導者や支援者が一方的に学習を進める(押し付けるような形)になってしまい学習者のニーズと異なっても学習者は何も言えないというパワーバランスが存在する。そのような状況をワークショップの体験や現場の経験者の話を聞くことを通じて理解することができた。

また養成講座に参加した受講者が継続して当会の日本語教室に支援者として参加していることも成果の一つと言える。養成講座で体験したことを、当会の教室活動で効果的に活かしている。

検証方法は受講者にアンケートを取る形式で行った。参考までにアンケートの内容も添付する。

(11) 改善点について

開催日程：土曜日・日曜日・火曜日の3日間だったが全講座を受講することができない人もいた。次回には、開催時期、曜日、時間の設定を検討必要がある。

講座タイトル：養成講座のタイトルを「外国人市民のための地域日本語支援者養成講座」としたが他の人が見た時にわかりづらいイメージがあったのでもう少し優しいイメージでのタイトルづくりをする必要があった。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 ときめき☆ちいき日本語教案・レジュメ集
単語帳

- (2) 対象

教案

教室形式で日本語指導・支援を行う人

単語帳

ひらがなとカタカナが読める、書ける人。簡単な会話のやりとりができる人から

ゆっくりなら相手の話を理解できる人。

- (3) 目的・目標

当会で開催している日本語教室のみならず、各地域で開催されている日本語教室でも広く使用できるような教案・レジュメ集及び単語帳を作成する。

- (4) 構成

教案・レジュメ集

各課のトピック、参考教材を併記し、2 時間の学習時間の中で、講師がどのように進行するのか、支援者の動きはどうか、教具はどのようなものを使用するのかなどをまとめて提供する。また各課において必要であればレジュメも作成。

なお、教案・レジュメ集、単語帳共にさくらクラス、ももクラス毎に個別に作成した。

単語帳

各課ごとに、必要と思われる単語を漢字交じり、ひらがな読み、各国語の翻訳・解説もつけた。八尾市では韓国・朝鮮ルーツを始め、中国ルーツ、ベトナムルーツ、フィリピンルーツ等の外国人市民が多いので中国語、ベトナム語、英語による翻訳・解説も付けた。

- (5) 使い方

教案

さくらクラスの学習者(ゆっくりなら日常会話ができるレベル)と、ももクラスの学習者(さくらクラスに比べると語彙数が圧倒的に少ない、または日本語を話すことに躊躇するレベル)と同様の対象者を募って教室運営を行う場合の教案。特にももクラスの教案には、講師以外の支援者(会話ファシリテーターやボランティア)の動きも記載したので、複数のメンバーが教室に関わる時にどのような役割をしたらよいかがわかる。またさくらクラスの教案には、学習者の反応なども記載したので、次回の活動を組み立てる時に参考にすることができる。

単語帳は、数回のまとめ毎に各課での必要単語をまとめて配布する(あくまでも学習者が補足程度もしくは自宅での復習に活用するためのものであるため、授業の最初には配布しない)。

- (6) 具体的な活用例

日常会話がある程度できるレベルの学習者が、更にアウトプットする場面を多く創りだせるように活用する。また日本語を話すことに躊躇する、自信がない学習者が、とにかく会話することに慣れ、話したいと思うような環境を講師・支援者で作ることができるように活用する。単語帳は、日ごろ学習する時間がとりにくい学習者が学習者の母語で新しい

言葉を復習できるようにする。

- (7) 成果物の添付
別紙参照

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

コミュニケーション力向上を第一とする。主に八尾市に住む外国人市民が、日本語での会話に慣れ、自分で問題解決できること、地域参画(社会参画)につながるステップの場となることを目的とする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

日本語教室では「自分でできることを増やす」という目標を持って取り組んだ。それぞれの学習者のレベルで、コミュニケーション力が向上した。住所や名前がきちんと書けなかった学習者がすらすらときれいな文字で自分の住所などを書く姿や、初めての人とも物怖じしないで会話を行う姿、教室の中で仲間をまとめたり、ある時は通訳として活躍する姿を見ることが多くなった。また日本語学習に関する質問以外で尋ねたいことがある時も「日本語で話そう」という姿勢がほとんどの学習者に見られたことは大きな成果だと言える。

養成講座では特に「地域日本語教室」で活動する際に必要なスキルを身につけるという目標を持って取り組んだ。今回も様々な立場からの参加があったこと、特に中国やベトナムにルーツを持つ人が参加してくれたことが大きな成果と言える。また地域日本語で必要な知識(相手の話を聴く、学習者もさまざまであること、学習者を主体におく、日本語のパワーバランスに気付く等)をワークショップを体験しながら得られたので、当会の開催する日本語教室にスムーズに参加しやすかった、あるいはそれぞれの参加者が活動している教室で応用しやすかったことも成果の一つとしてあげられるだろう。

教材作成では、当会で使用もするが、それ以外の地域の教室活動でも幅広く活用できるものを目標に取り組んだ。教室の規模や、学習者のレベル、開催時期などは異なると思うが、1回の授業でどのような活動を行うと学習者にとって役に立つのか(学習者の様子はどうだったのか)、教室に複数の講師やボランティアが居る場合はどのような役割ができるのか等を詳細に記したので、初めて教室活動を運営する団体などにとってはかなり有益なものになるはずである。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

活用:

年間カリキュラム(さくらクラス・ももクラス共通)を決める際、とくに身近だと思われる教材例を抜き出した。各回の活用方法についてはクラスごとに異なる。

利用できるイラスト等のシートはそのまま資料とした。ことばやスクリプト等は必要な語彙や言い回しをレジュメに記載したり、ロールプレイのモデルで紹介したりした。活動内容は、指導ノートを参考にする場合とこちらで内容を考える場合があり、トピックやクラスによって異なる。内容が当会の学習者に合わない判断した例集については、タイトルだけを借りてオリジナル教材等で活動を行った。

成果：

イラストのあるものは学習者にとってイメージしやすい。イラストや写真を見て、「たとえばこんなものは？」など似た例について質問を受けることもあり、学習者の知識の幅が広がる手助けとなった。

テーマが決まっていたので学習者から言葉を引き出しやすかった。

気付いたこと：

当会の学習者は既に生活に必要なことばはよく知っているが、アウトプットする場がないため、知っている知識をどのように生かしていくかが課題である。

カリキュラム案の例集は、長く日本に住んでいる学習者にとっては既知の話題である場合が多く、カリキュラム案はやや使いづらかった印象がある（Ⅲ消費活動など）。その場合は先に述べたように、タイトルだけを借りて例集から大きくはなれた活動を行った。

カリキュラム案の教材集を使用したことで、学習者がわかっていること、まだわかっていないことを確認でき、学習者を知るための手がかりとなった。

教材集の細目がもう少し大まかでもよかったのではないかと思った。

（4）地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語教室以外のアウトプットの場である「やおえこり」は、学習者がとても楽しんでいたり、地域の参加者（近隣の学校の先生たち、当会の会員）とも交流ができてよかった。

八尾市の職員の方が八尾市についてクイズを交えながら紹介したワークでは、みんなが興味を持って聞いていた。長年八尾に住んでいる人でも知らないことが多いので今後もこのような機会があれば開催したい。

交流会では、地域の方を招いて全員でハンドベルやマジックを行った。学習者全員で何か一つのことをやるのは学習者や関係者との関係をつくるのにもよい機会となった。

（5）改善点、今後の課題について

1年を通じて学習者と共に会話をメインとした教室をつくってきた。学習者は個人個人でレベルアップしており、どんどん地域社会に関わろうと外に出るようになってきていることから一定の成果は出たと感じている。

しかし当会では、学習者が自分で問題解決できることや地域参画（社会参画）を目標と考えているため、カリキュラム案に沿った教室展開はやや難しかった。日本語で生活ができるようになることが目標であることは言うまでもないが、そこを到達点とするのは時間のかかる話で日本語学校に通って習得するのがいちばんの近道となる。カリキュラム案の趣旨にも述べられていたように「地域交流や居場所づくり、人と人とのつながりづくり」が必要な当会では、日本語を使うことに抵抗を感じず自信を持つことが優先課題なので、今後はカリキュラム案と別に会話トピック例集があればよいと感じた。

教材として、毎回教案とレジュメを作成した。レジュメは学習者に配布するが、実際はレジュメを超えた会話がメインになり、「今日の内容」についての確認程度の扱いとなった。学習者はわからないことばや興味のあることばを自分のノートにとり、文字や意味の確認は支援者とともにやる。そこで日本語を使ったコミュニケーションは成立するので、教室によっては必ずしも教材は必要なものではないと思われた。

今後、地域交流のためにイベント等を開催する際は、学習者の職場の人や、地域の福

社委員の方などにも招待状を出すなどの工夫を行い、一緒に参加してもらってより学習者とその周囲の人のコミュニケーションが円滑に図れるようにしていく。そして地域や近隣の学校にも働きかけて、学習者と一緒にイベントの企画・運営ができるようになれば、双方向での情報の共有や、理解が深まるだろう。

日本語支援者養成講座では多方面から講師のかたや参加者が集まり、非常に興味深い内容となった。この講座がきっかけで毎回参加されるようになった支援者もおられ、とてもよい結果を残せた。しかし、そうした人は多くはない。単なる勉強で終わらせず、その後の教室運営にどのように結び付けていくかが課題となる。

講師間では、カリキュラム案の活用の仕方について話し合ったりしていたが、それを支援者向けに勉強会を持つ機会がなかった。次年度は支援者も安心して参加できるように勉強会を定期的に開催していけば支援者や関係者のスキルアップにもつながるだろう。

(6) その他参考資料

地域日本語支援者養成講座 受講者アンケート一覧

第1回「八尾市の外国人市民の状況」 朴 洋幸さん

講座の中で一番印象に残った話

- ・ついやりがちな「この国の人は」という見方。個人を見て個人の状況を知ること。
- ・外国人が日本で暮らす背景は多種多様であり、同じ国の人同志でも決して同様ではないということ。固定的な観念を持たずにその人個々人で背景を知る努力が必要であるということが印象に残りました。
- ・「社会的距離」の比較がとりわけ興味深かったです。
- ・国際結婚の割合が多い事に驚きました。日本人の意識の中に、アジア、アメリカ、ヨーロッパで違うことが現在も続いていることに考えさせられます。表面上の国際化ではなく、世界は一つという観念がそれぞれの方達の中に認識される事が必要なのでしょう。
- ・簡単な説明であったが、出入国管理法の改正の話しや、最後のグラフ(社会的距離)で、1968年と1998年の意識が変わっていないことについて驚きでした。
- ・双方の意識の話。
- ・外国籍市民をとりまく壁。外国人が暮らす背景。
- ・外国人は悪いことばかりするというイメージをもたれていること。
- ・日本中での外国人の事を表にしたり、具体的な数字を表記してくれたので勉強になった。
- ・全部印象に残りましたが、外国籍市民をとりまく壁についてのお話の法・制度の壁についてまた詳しくお聞きしたいと思いました。
- ・社会的距離。なんとなく「そうだろうなあ」と思っていたのですが、グラフで表すとびっくりしました。
- ・社会状況がよくわかった。

その他(ご感想・ご意見など)

- ・「クイズです」といきなり言われたのがおもしろい。
- ・外国人を取り巻く地域的な生活環境も知ることができました。
- ・外国人住民をめぐる状況の過去10年～20年くらいの様々な変遷がわかりやすかったです。
- ・八尾におけるベトナム人への意識がどのようなものかを知りたいと思っています。

- ・事例など状況など、質問を入れたり等は楽しいです。
- ・いつもすてきな笑顔をありがとうございます。
- ・ありがとうございました。
- ・朴さんにしてやられた気分です。でも勉強になりました。ありがとうございました。

地域日本語支援者養成講座 受講者アンケート一覧

第2回「地域日本語に関わって」 増田美穂子さん、ネルソン百合子さん

講座の中で一番印象に残った話

- ・日本語学校と地域日本語支援との目的とするところの違いについて理解できました。単に日本語を教えることのサポートだけでなく、継続的に授業を行うためには、様々なアクティビティが必要なことも理解できました。
- ・(ネルソンさん)多目的での居場所を提供する「にちようがちゃがちゃだん」。「ボランティア」「参加者」のコミュニケーションに関すること。(増田さん)具体的な「到達目標」がなく「メリハリ」をつけにくい地域日本語支援の難しさ。
- ・(ネルソンさん)居場所という意味を多様に考えたいと改めて思いました。唯、相談事はなかなか難しい問題かと思えます。(増田さん)日本語学校と地域日本語教室の違い。学習者に話ができる自信を持たせることが大事。その為に継続する意欲を持ってもらうように配慮をする。
- ・ネルソンさんの話の中で、学習者ではなく、参加者であり、教室を参加者の安心できる居場所として行っていくうえで必要ということが、印象に残った。増田さんの話して、教えるのではなく日本語を使うコミュニケーションの場を提供するという言葉が印象に残りました。
- ・「居場所」の話でいろいろ思い返すことができました。ご自身の思いを話して下さって良かったです。
- ・単に日本語を勉強するだけでなく生活やいろいろなことを交流できること。安心できる場所。楽しいことはもちろん辛いことも話せるところを作るのは大切な話だと思います。
- ・お二人とも、実際の経験を通じてのお話だったので、それぞれの感じていらっしゃるものが、とても伝わってきました。地域や運営方法で教室によっても様々な課題があることや、課題が違うことなど。また反省ばかりでもいけないし自己満足になってしまってもいけないことを改めて感じました。ありがとうございました。
- ・楽しいだけではなく弱い部分やしんどい部分を出し合える場にしたいという話。自信から確信へ(落合監督)はなるほどなと思いました。
- ・同じ帯なのに視点・立場が違っていると見方が変わる。参加者？学習者？ ボランティア仲間とも参加者としんどい話もできるようでないと安心できない、居場所が印象的でした。
- ・居場所を大切に。楽しいだけでなく厳しいことも共有してボランティアを続けること。

その他(ご感想・ご意見など)

- ・日時を決定しても人の集まり具合は様々であることは予想外でした。
- ・「参加者」「学習者」との、また両者間のコミュニケーションに力を注いでいるお二人のプレゼンは巧く、興味深かったです。
- ・最後の座談会でザックバランの意見が出てよかった。
- ・ボランティアをしている人はお互いに活動の経験・感想・意見を出すのも大事なことでわかりました。

・ありがとうございました。

地域日本語支援者養成講座 受講者アンケート一覧

第3回「教室活動をやってみよう！」 尾形 文さん

講座の中で一番印象に残った話

- ・支援者主導の進め方ではなく学習者主導の進め方が重要であることが理解できました。
- ・学習者の自律
- ・学習者のための支援であり学習者の自律を促す活動である。主導権は学習者にある。
- ・地域日本語教室での日本語学習では学ぶことがたくさんありました。
- ・一つの質問でもいろいろな考え方があることが印象深かったです。いろいろな視点で考えるきっかけができて良かったです。ありがとうございました。
- ・学習者主導で進める話。明確な目標を持って学習に取り組める点にヒントを得た感じです。どう教えたらいいのか等ちょっと悩んでいたのでも。ありがとうございました。
- ・教室の方向性、ニーズを引き出すことって？明確な目標がない。自律を促す。Aさん Bさんの活動を考えるとき、グループによって内容が違った。同じ学習者でも支援者によって視点が変わるんだなと感じました。

その他(ご感想・ご意見など)

- ・効率的な授業の進め方について既存の方法、マニュアル等がないという状況がわかりました。
- ・地域日本語支援を考えている人がたくさんいらっしゃるのことがわかり、この町のよさを感じました。今日の学びをさっそく実践したいと思います(識字学級で担当している生徒さんが外国の方なので…)いろいろな意見が聞けて楽しかったです。ありがとうございました。
- ・久しぶりに頭を使うことが多くちょっと疲れました。ごめんなさい。先生の幅広い知識に感動！！
- ・講座生参加型でいろいろ考えることができた。面白かった。
- ・自律についての話がよかった。

地域日本語支援者養成講座 受講者アンケート一覧

第4回「異文化コミュニケーションワークショップ」 富岡 美知子さん

講座の中で一番印象に残った話

- ・「青い目、茶色い目」言葉の一つで人間の心が変わる。なんだか恐ろしく怖くなりました。
- ・いろんな方の価値観や話をきけて良かった。十人十色だと思った。
- ・「青い目、茶色い目」のビデオを見て、どちらの立場も経験する事に意味があることを考えてしまいました。立場にたってはいつも考えているのですが…。多数派、少数派の事も改めて心したいと思っています。
- ・「青い目、茶色い目」
- ・パワーバランスのお話。日常、当たり前前に思っていること(感覚)が視点(立場)を変えてみると相手に対してアンバランスな状況を作ってしまうことがある。「青い目、茶色い目」のビデオでも同様の感想を持ちました。
- ・「青い目、茶色い目」のビデオがとても衝撃的でした。

その他(ご感想・ご意見など)

- ・ワークショップでいろいろな発見があり面白かったです。青い目、茶色い目。
- ・ワークは苦手なのですが、今日はとても愉しかったです。私の中で差別や偏見は人間として一番淋しいものだと思っております。有意義な時間をありがとうございます。
- ・全員参加型で面白かった。
- ・自分の世代(60代)は社会の価値観に従うといった傾向があると思うが、「青い目、茶色い目」の授業のように学童期から(体験を含めて)ダイバーシティ教育を受けておくべきであると思いました。
- ・「日本語ができる」ということが圧倒的に強い立場だということを忘れずに、日本語指導にとりくんでいきたいと思います。
- ・エドワルドが自分の価値観なのか?と考えさせられました。

地域日本語支援者養成講座 受講者アンケート一覧

第5回「学習のユニバーサルデザイン」伊丹昌一さん

講座の中で一番印象に残った話

- ・誰にでも必要というユニバーサルデザイン
- ・すべてです。障がいがあっても無くても、子どもの自尊感情を大切にします。
- ・今の教育の現場は携帯と同じで日々、確実にいいものに成長していて、聞いてびっくりすることばかりでした。
- ・今の小学校、幼稚園でイロイロな工夫がされていること。後、先生の話し方がすごくわかりやすかったことです。
- ・障がい者との難しい接し方等参考になった。
- ・ユニバーサルデザインの概念がよくわかりました。特に「学び方の違い」を認め合えるクラスの説明は新鮮でした。物事をメジャーの目で判断せぬよう留意します。
- ・「学び方は一人ひとり違って、一人ひとりに合った学び方があってよい」とみなが思える授業という中で、おとながモデルにならなければいけないというお話が印象に残りました。
- ・健常者でも生きにくいと感じていれば障がいであること。誰もが困らないことが大切。静かにさせるのではなく、どうやって動かすかを考える。見通しをつける大切さ。
- ・子どもの絵は可愛らしく豊かだなあとみるのは好きですが、ある子どもは顔の輪郭をいつも描かないので不思議に思っていました。絵を見てその子の気持ちや性格がわかる話しや集団に入ることができない様々な子の対応方法が印象的でした。

その他(ご感想・ご意見など)

- ・沢山の学びをいただきました。レジュメ、お話も分かりやすく、とても良かったです。ありがとうございます。
- ・お話を聴いていて、逆に子ども達と話して実際にツライ想いをした事がありますか?と聞いてみたかった。
- ・自分は子どもが苦手で何を話したらいいかわからなくて、どうすれば好きになれるか悩んでいました。先生のお話を聴いて、子どもって私たち大人が考えている以上にデリケートだということがわかり、私も帰って自分の妹(4歳)と話をたくさんして、もっと仲良くなろうと思いました。もっといい教育を妹にしてあげたいな。ありがとうございました。

- ・伊丹先生のお話に聞き入ってしまいました。成人の外国人に言葉を教えています、参考になることも多くありました。
- ・話のテンポがよく、いねむりすることがなかった。
- ・とても参考になりました。私が「あたりまえ」と思って抽象的な指示をしていたことで困っている子どもがたくさんいたのでは…と思い反省しきりでした。
- ・子どもと接していて、環境でも態度でも配慮の足りないところが多々ある、と気づかされました。
- ・今まで通訳や母語支援者として、保育所や学校ではいろいろな子どもや児童生徒を見て、なぜその子はそんな行動をしたのかなあと不思議に思ったり、どうしたらよいのか困ったりした事がありました。この講座を受けて、伊丹先生の話聞いてよくわかりました。この講座で学んだ貴重な経験を活かしてこれからも子ども達と過ごすことができたと思っています。ありがとうございました。

地域日本語支援者養成講座 受講者アンケート一覧

第6回「日本語教室に参加してみよう」

第7回「地域日本語支援で大切なこと」 野中 モニカさん

講座の中で一番印象に残った話

- ・1つのトピックで、こんなに話が広がっていくことがとても印象に残りました。またわからない言葉があれば、お互い教え合いながら進めていくところもグループで一緒に勉強しているところのよい面だなあと思いました。ありがとうございました。
- ・よく話はわかった。
- ・地域の人たちが支え合うことの大切さを改めて感じました。共に学ぶという部分では、実際に私も質問をうけて市の制度など知らなかったことを学ぶことがあったことも多々あるので、本当にそう思いました。ありがとうございました。
- ・外国人のPOP。日本人も大切にしたいものですね。
- ・学習者と支援者の関係、支援者の心構えについて多方面からお話いただきました。特に相手の話を聴く耳を持つということ、相手に歩み寄り、相手に近づく姿勢が大切ということが印象に残りました。
- ・みなさんと交流できてよかったです。

その他(ご感想・ご意見など)

- ・カンさんと一緒に会話できたことが第1歩になりました。
- ・少し疲れた。
- ・「導入」と「まとめ」のみの参加でしたが、地域日本語支援に関わるに際しての重要なエッセンスを知ることができました。
- ・毎回素敵な先生ばかりでした。自分のいたらなさに反省。
- ・ボリュームの多いお話でしたが、初学者の自分にとって大変参考になりました。
- ・最後のまとめがよくわかった。